

## 式辞

学部新入生の皆さん、そして大学院に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。また、これまで新入生の皆様を励まし、支えてこられたご父母をはじめとする関係者の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

本来であればこの言葉を、歴史ある武蔵学園大講堂で、皆さんに直接お伝えしたかったのですが、新型コロナウイルスの国内感染が拡大するなか、皆さんの健康と安全の確保、ならびに感染拡大防止を最優先に考え、大変残念ではありますが、大講堂での式典は中止せざるを得ませんでした。

また、学生証の交付や各種ガイダンスも予定通り実施することは難しく、今、日々変化する状況を把握しつつ、最も適切な方法を検討中です。さらに、ここ一週間の東京都における感染拡大を考慮すると、爆発的な感染拡大を防ぐためにも、四月二〇日に予定していた授業開始を更に延期し、五月十一日からとすることにしました。この間、ガイダンスや履修登録はオンラインで実施することになります。その方法など詳細は、近日中にホームページにアップしますので、皆さんは、最新情報に十分注意しててください。

今は、不要不急の外出はなるべく控え、手洗い、手の消毒、マスクの着用など、自分の身は自分で守るよう心がけてください。特に、「三つの密」と呼ばれる、換気の悪い密室空間や人が密集する場所、密接した近距離での会話を避けるようにしてください。

私がこの式辞で皆さんに最もお伝えしたいのは、皆さんが武蔵大学の学生となったことに誇りを持って頂きたいということです。これからお話しするように、武蔵大学は、日本に六百以上ある私立大学の中でも、特にユニークな教育を実践し、その成果を出してきた大学です。また、こうした歴史の上に、新しいグローバルな取り組みを展開しています。

まず、武蔵大学の成り立ちについてお話ししましょう。

本学は、今から九八年前、一九二二年、大正十一年に設立された日本で最初の私立七年制高等学校である旧制武蔵高等学校をそのルーツとしています。

この武蔵高等学校を設立したのは、幕末に甲斐の国の正徳寺村（今の山梨県山梨市）に豪商の子として生まれた根津嘉一郎という人物です。根津は政治家でもあり実業家でもありましたが、よく知られているのは、「鉄道王」とも呼ばれるように東武鉄道などの礎を築いたことでしょう。根津は一九〇九年、明治四十二年、四十九歳の年に、渋沢栄一が率いる渡米実業団に参加し、三か月間をかけてアメリカ合衆国を一周してきます。この間、各地でアメリカの富豪や実業家が、自分の財産を社会に還元する目的で、学校や図書館、美術館を作っているのをまのあたりにして、強い感銘を受けることになります。そして帰国後、根津育英会を設立し、武蔵高等学校をつくるのです。また、根津が亡くなったあとに建てられた根津美術館も社会貢献の一つと言ってよいでしょうし、スカイツリーの高さが六三四メートルであることも、武蔵学園とのつながりを示唆しているように思います。

さて、旧制の武蔵高等学校には、建学の三理想という教育方針がありました。

すなわち、第一に、「東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物」、第二に、「世界に雄飛するにたえる人物」、そして第三に、「自ら調べ自ら考える力ある人物」を育てることです。「東西文化融合」すなわち、日本文化と西欧文化の融合ということでしょう。例えば、動画で祝辞を述べられている有馬朗人学園長は、わが国を代表する物理学者であるだけでなく、俳句の世界でも高名な指導者であり、世界各地に日本人以外のお弟子さんをたくさんお持ちです。「世界に雄飛するにたえる人物」。今風に言えばグローバル人材の育成と言って良いでしょう。「自ら調べ自ら考える」。これも今はやりの言葉を使えば「アクティブ・ラーニング」と読み替えることもできるでしょう。

今から九〇年以上前に作られたこの三理想は、百年近くたった今でも、立派に通用する内容であり、本学園の建学の精神をあらわしています。戦後の学制改革のなかで旧制武蔵高等学校は、新制の武蔵高等学校中学校と武蔵大学という二つの学校に引き継がれることとなりますが、大学として再出発した武蔵大学も、これまで七一年間にわたって、この三理想を教育の原点として位置づけ、絶えず立ち返るべき建学の三理想、建学の精神としています。

さて本学では、この「建学の三理想」を踏まえつつ、現在の武蔵大学が目指す教育の三つの基本目標を定めています。この三つの基本目標とは、まず三理想の中にもあった「自ら調べ自ら考える（自立）」、そして「心を開いて対話する（対話）」、最後に「世界に思いをめぐらし、身近な場所実践する（実践）」です。

第一の目標、「自ら調べ自ら考える」とは、主体的に、また創造的に考えることのできる人物を育てようということです。今の社会状況に即して言えば、日常の物資が不足するといったデマや流言に惑わされることなく、正しい情報を調べて、自ら考えて行動することです。外出するにあたっては、その行動が「不要不急」であるかどうかを考えて行動することです。

次に、本学の教育の第二の目標、「心を開いて対話する」とは、相手の気持ちや話の内容を正確に深く理解し、自分の気持ちや言わんとすることを的確に相手に伝えるコミュニケーション能力のことです。このような「対話」を行うためには、お互いの心や置かれている状況を理解する力が必要となります。またそれだけではなく、相手の主張を論理的に捉えなおして理解する力や、相手が理解できるかたちで自分の考えを組み立て、これを伝える力が必要となります。こうした真の意味での対話力、コミュニケーション力は、今後皆さんが社会に出た場合に必ずしもめられるものだと言って良いでしょう。

武蔵大学には、「自立して考える力」や「対話する力」を育て上げる場が数多く用意されています。特に、一年次から四年次まで履修するゼミナールでは、自分自身が調べたり考えたりしたことを教員や学友に対して発表し、討論するとかたちでこの二つの力を育てることが出来ます。主体的に学ぶことのできるさまざまな授業に積極的に取り組み、これらの力を大いに伸ばしていった下さい。

その際、七十万冊以上の蔵書を誇る図書館を積極的に活用することをおすすめします。現在ではスマホやパソコンを使って様々な情報を得ることが出来ますが、直に書物や資料に触

り、それらをじっくりと読み込むことは、学問の原点でもあります。図書館に常設されているパソコンに向かいながら、書籍や資料を読み込むという学習姿勢をぜひ身につけて下さい。また、本学図書館には「ディスカッションスペース」という、資料やインターネットなどさまざまな情報源を活用して、それについて討論しながら学習できる空間もあります。こうした施設を有効に活用して自立的思考力と対話力を豊かに培って下さい。

第三の教育目標、すなわち「世界に思いをめぐらし、身近な場所で実践する」については、次のことをお話しておきましょう。

皆さんもご承知のように、二〇世紀末からグローバル化が大いに進み、今後その流れは一層加速していくことでしょう。皆さんが社会の中核的人材として活躍する一〇年、二〇年後には今では想像できないほどグローバル化した社会になっていると思います。国際的な視点で物事を考え、それを職場や地域や家庭で実践することがますます重要になります。欧米の環境保護運動の中で生まれた標語に、「Think Globally, Act Locally」という言葉があります。「Think Globally」すなわち、地球規模で物事を考え、「Act Locally」今、あなたが生きているその場所での実践しなさい」という意味です。グローバルに考え、身近な場所での実践する力をつけることが、これからの社会を支えリードする人物となるために必須の条件であるといえます。ここ数ヶ月間に中国で起こったことや、ここ数週間のヨーロッパやアメリカの感染拡大に思いを巡らし、今、あなたのいる場所での何をすべきか考えて実践してください。また、国連が二〇一五年に定めた「持続可能な開発目標」、SDGs (Sustainable Development Goals) についても深く理解し、先進国の一市民としての行動の指針としてください。

では、そうした力をつけるために、皆さんは大学で何をなすべきなのでしょう。今まで述べてきた「自立」的な思考力や「対話」力は、国際社会で活躍するためにも大いに必要とされます。また、自分たちとは異なる社会や文化を理解すること、異なる生まれの人々を尊重し差別しないこと、いわゆる多文化共生の視点も重要です。そして、いうまでもなく外国語の力を充分に身に着けることも不可欠でしょう。

外国語学習に積極的に取り組み、外国語の力を大きく伸ばしてください。武蔵大学にはそれを支える様々な施設やプログラムが用意されています。必修の授業だけでなく、「留学準備講座」など必修以外の授業にも積極的に参加して下さい。大学1号館の武蔵コミュニケーションヴィレッジ、略称「MCV」を大いに活用して下さい。さらに、正規の授業以外の「TOEIC」や「IELTS」など、英語の外部試験のスコアアッププログラムにも参加して下さい。

学内で学ぶだけでなく、日本に居ながら武蔵に通いながら、アメリカの名門大学の授業を受けることもできます。武蔵大学はアメリカの名門州立大学であるテンブル大学の日本キャンパス、すなわち Temple University Japan Campus (略称TUJ) と単位互換や図書館相互利用などの協定を結んでいます。夏には、TUJの先生方による英語の集中授業、English Summer School が本学で開催されます。皆さんの積極的な参加を大いに期待しています。

さらに、日本で外国語を学ぶだけでなく、ぜひ世界へとばたいて下さい。世界に雄飛して下さい。もちろん今は、海外への渡航は困難ですが、人類は必ず新型コロナウィルスに打ち勝ち、これまで以上のグローバル化が進むと思います。そのときには、「外国語現地実習」や「海外フィールドワーク」「ボランティア実習」などで海外に出かけ、外から日本を見直してみて下さい。さらに、半年、あるいは一年間、留学の協定を結んでいる世界の大学で学んでください。

ところで、武蔵学園は、今から二年後の二〇二二年に、創立一〇〇周年を迎えます。皆さんが三年生になる年です。この創立一〇〇周年に向けた学園の基本方針として、二〇一四年に、「まなざしを世界に向け二十一世紀の課題を担う国際人を育てる学校を目標とする」という理事長ドクトリンが公表されました。これを受けて同年秋に「世界に開かれたリベラルアーツの学園となることを目指す」と題した学園長プランが定められました。こうしたドクトリンやプランに基づいて、学園の第三次中期計画が策定され、その中で、武蔵大学は、大学の目指すべき新しいヴィジョンを「異文化を理解し未来を創造する教養あるグローバル市民の育成」としました。

そしてこのヴィジョンの実現のため、それぞれの学部の特徴を生かした新しいプログラムやコースを開始しています。まず経済学部において、二〇一五年度から、「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム」、通称PDPという教育課程をスタートさせました。これは、ロンドン大学のロンドン・スクール・オブ・エコノミクスが提供するカリキュラムを武蔵大学の先生が英語で教えることで、武蔵に通いながら、武蔵大学とロンドン大学の二つの学位を取得するという日本では唯一のプログラムで、昨年度は一期生の男女各一名、計二名の学生が二つの学位を取得して卒業しました。武蔵大学の初代経済学部長であった鈴木武雄先生の夢が、「武蔵大学を日本のロンドン・スクール・オブ・エコノミクスにしたい」という願いであったことを思い起こすと、まさに七〇余年の歳月のうちに、その夢が実現しつつあると言ってよいでしょう。

次いで、人文学部と社会学部では、三年前から、それぞれ「グローバル・スタディーズコース」(通称GSC)と「グローバル・データサイエンスコース」(通称GDS)を開設しています。

人文学部のグローバル・スタディーズコースは、語学力を徹底的に鍛え、グローバル時代の世界と日本の文化について深く学び、外国語で表現できるようにすることを目的するプログラムです。このうち「英語プログラム」では、一年次からネイティブの教員のゼミに所属して、現代的あるいは歴史的な問題を英語で考え、その研究成果を英語で発表するトレーニングを行います。英語以外のプログラムでは、それぞれの言語について高度な語学力の習得を目指します。

社会学部のGDSでは、英語力を徹底的に鍛えた上で、ネット空間に蓄積された英語のビッグデータや提携している企業から提供される調査データ等を社会学的に分析する能力の育成を目指します。武蔵学園では「武蔵学園データサイエンス研究所」を設立してGDSを

支援しています。

これらPDPやGSC、GDSに所属される皆さんは、四年間しっかりと学んで、異文化を理解し未来を創造する教養あるグローバル市民となることを目指して下さい。もちろん、これらのプログラムやコースに参加しない方々も、それぞれの学びを通して、「教養あるグローバル市民」として成長して頂きたいと思っています。

以上、建学の三理想と武蔵大学が目指す三つの「教育の基本目標」をご紹介しながら、本学の教育の特色や新しい取り組みについて述べてきました。武蔵大学は勉強だけでなく、部活動やサークル活動にも長い歴史と伝統があります。きっと、皆さんお一人お一人にあった部活やサークルが見つかると思います。ぜひ、部やサークルでの活動、ボランティア活動などにも積極的に取り組んで下さい。

大学での四年間は今の皆さんにとっては、長いように思われるかもしれませんが、しかし、漫然と過ごしていると、成果をあげないまま、たちどころに終わってしまいます。大学院博士前期課程の二年間はなおさらです。四年後に卒業し社会に出るとき、あるいは、修士の課程を修了するとき、どのように成長した自分となっているのか、その姿を思い描いてみて下さい。そして、そのために皆さんに与えられた時間をどのように過ごすべきかを、今からじっくりと考えて下さい。

また、博士後期課程に入学された皆さんは、オリジナリティのある優れた博士論文を完成させてください。

高い目標を掲げ、それに向かって積極的にチャレンジすることで、皆さんに与えられた大学生活あるいは大学院生活を、後から振り返って悔いのない充実したものにして下さい。そして、武蔵の学生として誇りをもてる人へと成長して下さい。

そうした皆さんの努力を私たち教職員は全力で支え、支援致します。

このことをお約束するとともに、新型コロナウイルスの感染防止について、皆さんお一人お一人が自覚をもって行動して下さるよう改めてお願いし、私の式辞の結びと致します。

令和二年四月二日

武蔵大学長 山寄哲哉